

＜第 84 回 HSE セミナー 講演内容＞

■テーマ：「介護者が孤立しない地域づくりのために ～拡がるケアラーズカフェの実態～」

■講師：牧野 史子 氏（NP0 法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン理事長）

超高齢社会といわれる日本の介護状況の実態はどうなっているのだろうか。約 620 万人（平成 27 年度）といわれる介護認定者の裏には、それ以上の介護者がいるという現状がある。近年では介護を巡る様々なトラブルも後を絶たない。昨今では認知症の介護者が集う「認知症カフェ」が全国で取り組まれているが、より視野を広げたフォローが地域には必要なのではないか。それが「ケアラーズカフェ」である。薬局は医療と介護の中間地点と考えられる。こういった取り組みが本当の「地域活動」であり「かかりつけ」への道ではないだろうか。「ケアラー」は日本だけでなく世界中で取り組まれている考え方である。何事も先取りの精神が大事な時代である。

＜講師紹介＞

千葉大学教育学部卒業。1995 年、兵庫県西宮市在住中に阪神大震災に遭い、仮設住宅高齢者支援活動を展開中に「介護者の孤立問題」に直面、支援の必要性を痛感し、2001 年東京にて「介護者サポートネットワークセンター・アラジン」を設立。家庭を訪問する「ケアフレンド」や「介護者の会」の設立、地域のネットワークづくりを推進してきた。2012 年、杉並区に常設の「ケアラーズカフェ」を開設し、全国普及をめざす。さらに、2010 年、ケアラー（家族など無償の介護者）連盟を設立。一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事として介護者の権利擁護をめざし「介護者支援推進法」の制定にむけ運動を展開している。

.....

■テーマ：「小売業の顧客満足度とリレーション」

■講師：並木 雄二 氏（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授）

「モノが仕入れられない、売れない」これは小売業にとって致命的な問題である。健康サポート薬局が始まり、OTC 販売への取り組みが推進される。この取り組みは薬局にとって「吉」とでるのか「凶」とでるのか。いずれにせよ、現在の物販の仕組みを考え直さなくてはならない。「置き方」「並べ方」「並べる場所」その一つ一つに意味があり、意思がある。その日本式小売の鉄板を作ったのが、コンビニエンスストアである。脱調剤に向けた、戦略を今一度考え直したい。すでに大手調剤チェーンとコンビニチェーンとでは提携が結ばれている。「物販の雄」ドラッグストア、「追従する」大手調剤チェーン、この構図に気がつかなければまた時代に置いていかれる。

＜講師紹介＞

1981 年(株)セブン・イレブン - ジャパン入社。加盟店指導を歴任。1990 年より経営コンサルタントとして独立。チェーンストア本部からメーカー、卸、公企業まで幅広くコンサルティング活動を行う。2002 年より郵政事業庁、日本郵政公社の変革を指導し、2005 年度に総裁表彰受賞。2007 年より現職。経営者、コンサルタントを育成するプログラムの責任者。

.....

■テーマ：「医療の制度改革と薬局」

■講師：土田 絢子 氏（日経 BP 社 日経ヘルスケア 記者）

10 月 4 日またあの会議が始まった。それは財務省による「財政制度等審議会」である。薬局関係者には「1200 枚の 70%」「後発 60%以下は減点」の会議といえば理解頂けるだろうか。言うまでもなく、報酬改定に与えた影響の多い議会である。社会保障費抑制に向けた第一回目会議から衝撃的な内容が飛び出した。それが「かかりつけ医以外の受診に関する負担金増」である。ついに日本の利用制度の特徴である「フリーアクセス」にメスが入る。そのほかにも「点数の包括化」「負担率の見直し」など皆保険制度維持に向けた抜本的改革案が検討されている。いうなれば継続的な未来は約束されていないといえる。これからの 10 年、医療制度を理解し対応した薬局が生き残れるといっても過言ではない。そうはいっても難しい。だからこそ繰り返し聞いてみたい。

＜講師紹介＞

県立千葉高校卒、東京大学理科Ⅱ類から同大農学部へ進学、同大大学院を経て 2002 年日経 BP 社入社。医療部門を扱う日経メディカルに配属。薬剤師向け媒体である日経ドラッグインフォメーションを経て、医療・介護を扱う日経ヘルスケアを現在は担当している。医療・薬局・介護と全てのフィールドを見てきた知識から読者へ分かりやすい記事を提供している。